



いたちごっこ



b-svaha

今朝、水道で顔を洗っていると、
洗ってもいない頭のでっぺんに、冷たい水がかかるのを感じた。
そして、頭の周りに硬い鉄のようなものが触れるのを感じた。

気にせず顔を洗っていると、
僕はその硬いものの中に入り、
どんどん吸い込まれていくのが、体感でわかった。

(水道の蛇口だ！)

どうやら、僕は、水道管の中に入ってしまったようだ。
全身が、冷やっこい水の中を、先に向って流れていく。

段々目が慣れて、周りの水が明るく見えてきた。
よく見ると、僕の何十倍にもなった水の分子が、
ひゆるひゆると自由に動き回っている。

(あれ、この分子たち、
全部「〇〇政府所有H2O」という透明な名札を付けてるぞ。
でも、分子の間にある水には何もついてないのかなあ…)

そう思った僕は、何も無い水の空間に意識をあわせてみた。

(見えてきた！

見えてきた！)

今度は僕ぐらいの大きさの粒子が、
ギュウギュウになって流れていくのがわかった。

どうやら、この子たちには、まだ名札は付けられてなかった。

僕たちの世界では、政府がすべての水を所有していた。
その所有権を侵して商売をするものがないようにと、
政府が様々な対策を講じているのだ。

(そのうち、誰かがこの秘密に気が付いて、
ラベルの付けられていない微粒子だけを集めて、
水の商売をするんだろうな。

僕の星の人たち、
いたちごっこというゲームが、大好きだからな…)

僕は、ふとため息をつきたくなった。

そんな風に思っていると、
水ではない、何か別の固い物体に、僕の後頭部がコツンと当たった。

「あ痛っ」

と、つぶやくと同時に、

歯磨き粉であちこち曇った、見慣れたガラスの歯ブラシ立てが、
寝ぼけまなこに霞んで見えてきた。

また、僕の朝が始まった。